狹衣

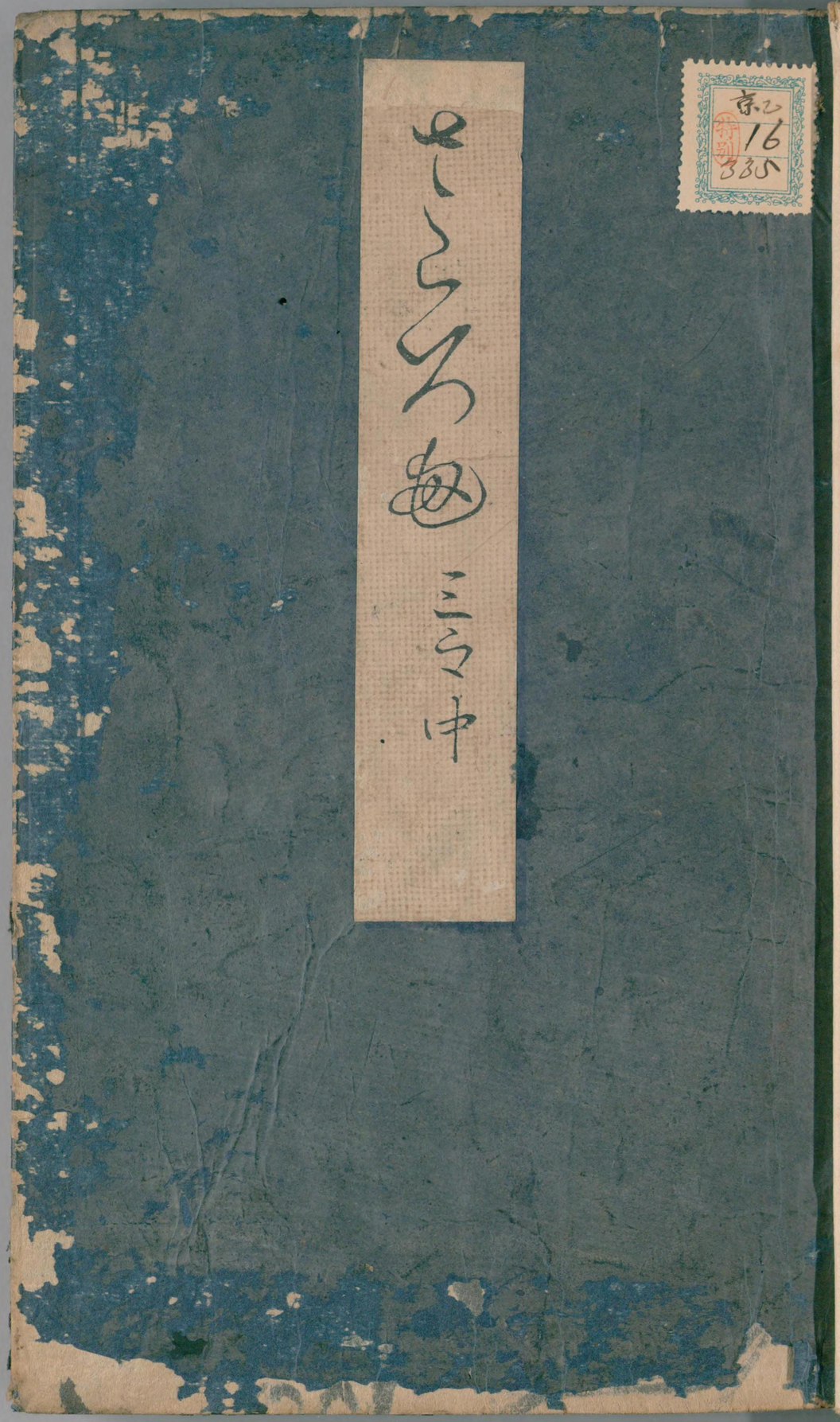
卷三 中下
卷四 上

七至九

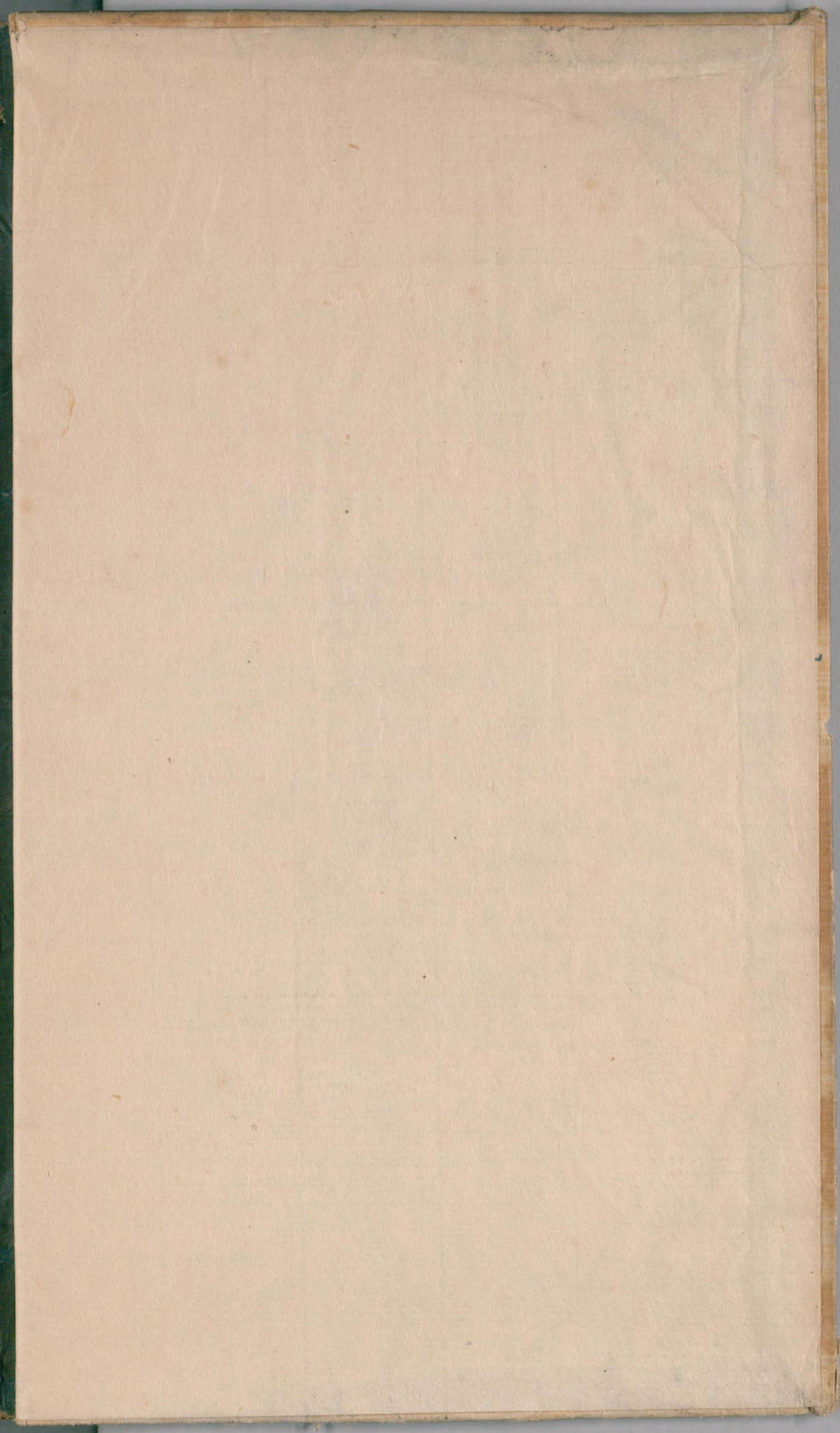
京乙
335

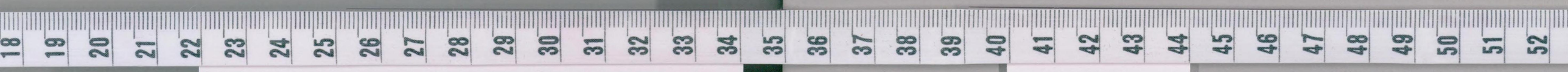
国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用



京乙
16
335
特別





国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

大花
2.8.3
購求

国立国会図書館　　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

せんうんぶんこ 上のまき

狭衣巻第三之中

錢洲齋藏書

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

らんとおやしうおぼして母の内侍乃先のとふくこそ
の給ひしかと思ひくいへば（いくハ左）お物の（内侍れ母の目）命婦のいひぞや
いつなるにかはしき給ふ事どもこそ
あまといひしかど○おなくるしさぶ所乃笑ふ
後うちうちあげ事せしまへどさいれ給ふぬ
すまいくさかりまゝ（一本ふ大将ふ九あまと）させ給ひぬあまもづ
おぼ給をの人ひとまひぬべくやうとそ屋こみし
を△少将乃命婦の法ぶ事なんとかくちより
給ふ事なしを人のいひなきとんまべくたるさも
見じうきもさぶ婦人とまつ事てうなるも出く
なれ又まゝ称びをさにおしふそせむつりまて

屋こぬるに大（こ長）将のおぼしやりしをしるく大納言ハい
せ事ぎやうに出ておもしをひそしうぎよあとに
まぐうるまりなくおく給やまし事うるさへそひていふ
をきく法ぐ人まあまくまりまるまりく内わくりまを
ぬし法（女と）乃事んにもやうくいひいでそれがちうさ
ぶ婦人をまあきまし事（うあうまりまた）とうなう屋ものまゝひ
なせそせうるこにいひつきあけまど強ならぬと
をたくうるしいでられだ強しうゐこいひなん人
おかうる世のさぶにくまとのあつ事まさていでれ
ひし事法車そこくにあそこそたりしうれふる
そのまれみるし法まどのあきるりしまさにあそ

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

ありそれなどなるもくれたちぎてかひさしの頃ぞ我
頃のみけるんともそのおもしろきなるゆと先ともとじめ給
すぎゆくしをうたこせいできそのちまた悪びりて
なのくいひいづしなどしてさくめくもあるべしまし
てなべての世ゆは年無にを海さ海をつまくしよ
いひなほを女郎もきうせ給ひて門約れめのと我
給してかくいせあさましきる我世の中にいふ
なるもいうなるなぞむ無りなれ事をバんのいふ
むとゆもおしぬをとの給ひまたるにいせ清まりく
なりてもの格大納言乃給ひける事をぞうたり
ぞゆるにいでされバそれ将の命姫乃志りとぎりや

とおぼしいせ給ふりいせんうくむまつてうるまく
おぼしなげくりこ後とてもいちまる紀法をし
きこもなる我をいうがうなめぎなるんの頃と我など
さんにまぐ面ほうしぬ法ひのうちなるゆ将の命
姫りなる我さくにあやまちまたなけまどたるな
我法ゆの法さんもさほうふせしへぬまばいとくる
しうそおさく法まんわるふもさしいでぬりうち
ふもきうせ給ひてなる海まづくりしきにきうん志う
ぬやうをあしなどおかせられ今まばいせあさ
ましくおりひなぎきておもとも升さうえ一事をいと
わる我法頃とふもおりしまさねハりる海事をきう

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

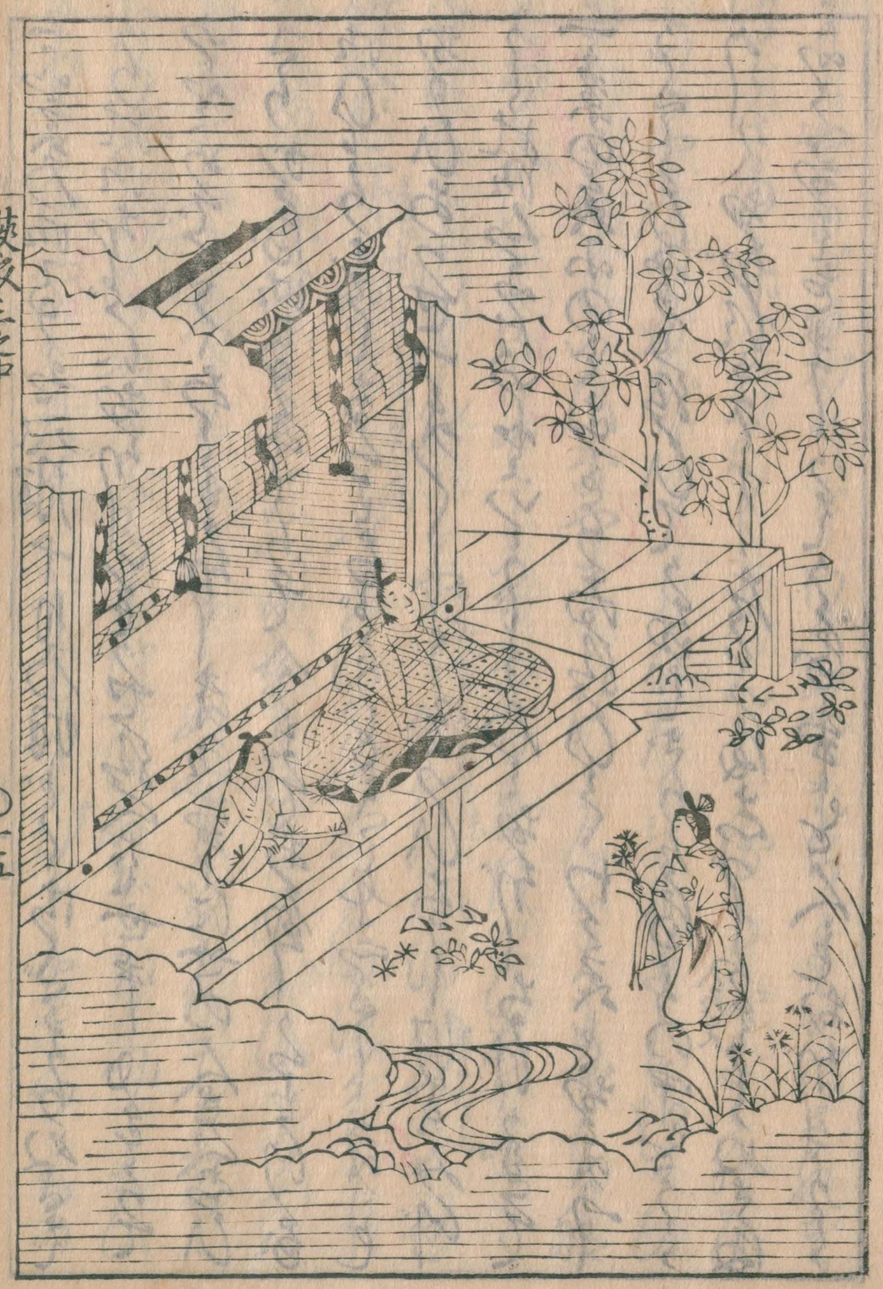
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

とのおもひくわるまやをいざ夫なりて明雲乃法あり
さ海物いひ乃ひけしさなどもなれこわらひこそ
給ふ（大将詞）かたはしさ乃ましかだなるにしたて
今まで侍る海にあるへてもぎりけるまゝ
抱むけしなるまもありぬべくれハ海ぞ世に
あらじ也ひたてぬる後只あの法ありさ海りこそ
思ひこづらひぬまとてなれ給ふさ海いやんぐるし
留也（中納言詞）さ幾ぬるくこそ侍る先ことなれ法
ありさ海ゆはうれもうらうじあそてあがしなぐさ海
めいやゝゆしくあるまし夫法（ハ左）るすかな又はぶ給ふ
ふさ海（一本ふのうす）なる事と世の人を学しさせ侍るまいやう

ましうおそ侍まぬりし又うなるすれ侍るべかりを
まばまだ見しかたまあやしうんくるしさるすも侍
しゆとそやきこゆる後（大将詞）おと人なりまさるまとも
おるじんすやとてあそ空ゝつまんくとの給ふか
あいでや今はさこしじ（行くすもた）薬りまむ出なれがとてしひ
こゞれぬまへ取きしなる今まそしいとせしぬり
なるまさるまゝ給ふやゝ見るまゝ例（大将）の法らせぞうし
とな海まくうまりさそ（大将詞）とかやうれるまどもさう
せ給ふんなゝ（中納言佐句）いけかたゞへ来り給へるまゝ
さいけ（中納言佐句）はまいりて侍り夫なるふ
やせさせ給ふら先ぜさらに（入ぬるまゝ）ある事とも侍らむ

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

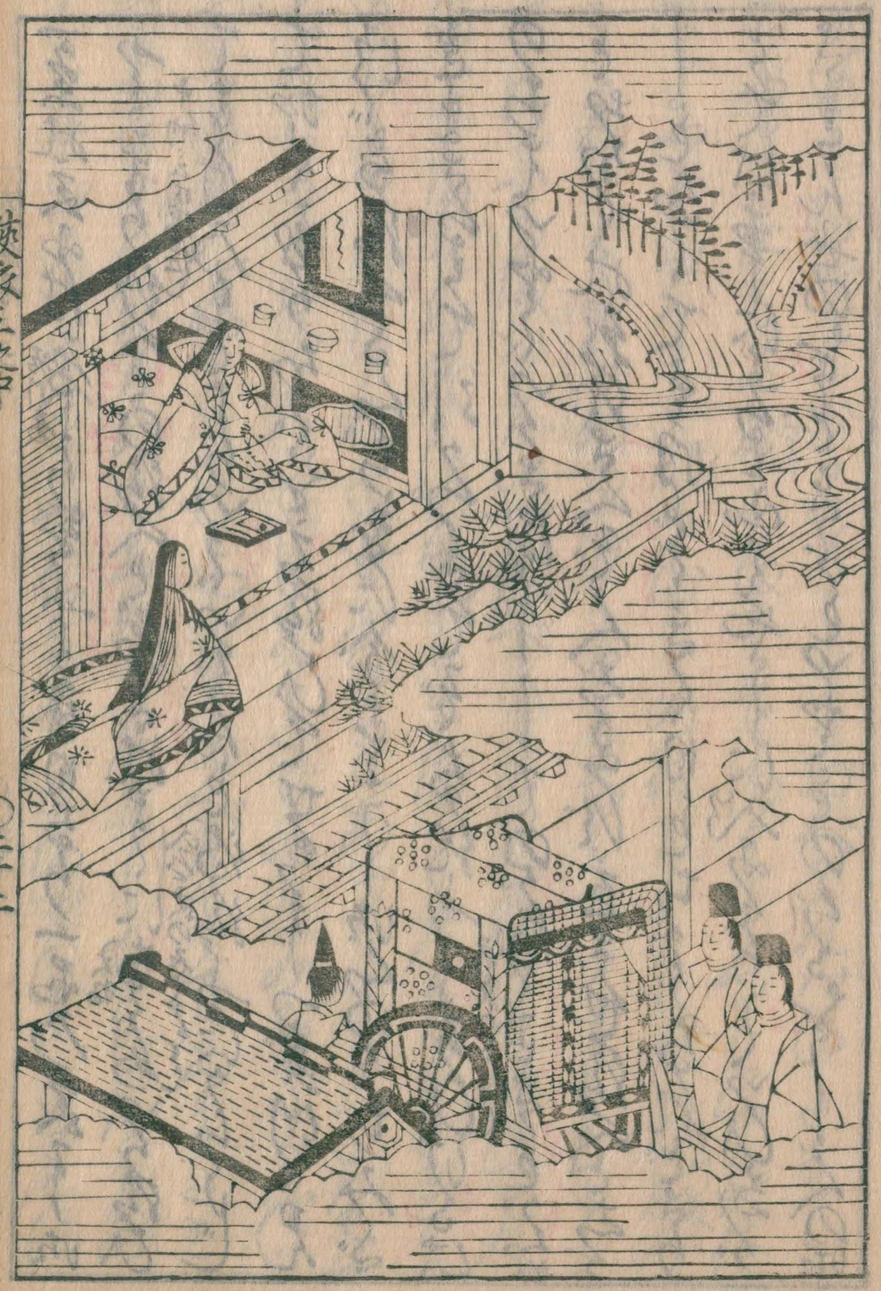
あげまへるに法まへちゝ義をしひかひ乃ほしまるなぞ乃
兼ふの露れいてこうみぶれて如れかへりさる後吹ちれあが
らしまもらくせみぶれおりける法西れ志したまぎれ
そてゐはしまゝぬとおぼさまてとゞりなりめ入こく
をしのぶひつゝえぞうさも屋りたまもぬ。こ後やり
ちるもし法ゝこりまのこゝ後まそこゝせたまふる
を得らんものをなどう
おまかへりおまかしまぶ後下おぼ乃来あれ風を
人乃とへりしなどやうふこゝ此法西とりんせ給
りぼまくゝしうおぼさぼとも又こいめんせしたぶ
あれぞうまゝ後なんぬぎしふかんるべ義なもの給

中納言内

ゆ後いせこしひし義ことさうなかさしは見やうざつまに得る
べかんとこ後くゝる後りのりぬぎがはいとさく来
まこれどごやおまの法おこまひのまゝにみぶうりお
りしませばかひる紀までもえ法らんせさをぬまひる
法りこまなるまて弁衣よりまゝせ給へる法りへり
ゆもさき給ふとて法砚めしよをこ後つ弁でにとり
出てひ給ぎてうちをさこゝりゝ今さしにう後袖のつ
袖に見ゆる後人をあらぶいりふとゞうおぼ
めさ後まぎでさハ至りふとのもえ乃たまりをねぶ
只法かりの色いとをしぎふくに法給んをるやうと
おけまぎどよもまぶら給ひ法るゝまゝおぼ

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

一ツ又
三十あまりに成りふ

かりまゝ給つまゝ給ふるを今はさだりに奴ぬる
法ありさ後ぬいかゝくせちふ思ひなぎ給ふるを
人はいかふ思ふらんなどなげ給ひ給ふ
へる哀乃法ありさ後よのつ法なるらんやはぞみそぢ
あとあまらせ給ひぬれがおとあしうあかぬ事
く祢びとくのかゝせ給てもづくしぬれきこう
あ給まくきはありさ後なるど只御の見きてなり
思ひ取りしりたがの法いかさ後にしてあり言
さんかゝひとり祢の御しがくこうまりのこ悪し
くて（公定法家の第此すまひの所にて）哉おとくあめしをとあるまし法ちまらひ乃
こゝ給ひりかつまて思ひいでら是給ふて枕乃ぬ是

朗詠集　菅三品
碧玉装箏斜立柱
碧玉芸色紙数行書　朗詠

ぬるぞゆしなや。世よまいとあつまぐこうこそあつま
きれ思ふるひとつ（原氏文ゆへこ）ひとつ事よつまそ給ふるをあかぐと
思ひやりて（公定文にて）法ら哉拍に思ひまそられなりてを
哉給ひきんこまむくひまゝなるあらぐ我分りあら
なんかゝ思ひけり只ちよひ乃内（周果）りむりぬるん
ちしこまふなやまし哉ふことつきていかゝ哉ふ
かく出給ふ一条の家にありしぬまぐ哉姫ろうてお
こゝる人をなかれがくしを一度のづくあけ
ひくあげてながめふし給へるりうれあまこ
つ祢てなる哉後家はしまうがたまづさをとひと
まごうちてせいんぬいかゝれ（古オシ）思さしとどんじあへ

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

あまたせて物をびれふさて屋がて[illegible]ちどおりし
給ふをとりつゝしこゝまたなし世にふ人をあるべし
女をやをりぎりなくあてちるは[illegible]とゝへたきたの
世なるこむまふ此神乃志をきれへるは奉りなれば
まやう御ぐし或は[illegible]なりしまへるたしめより
尺面うくはら或人[illegible]おがしむまほ[illegible]などに
いとゞ中のうとゝ乃を成まさらせ給へど見しまが
ほかもうらを[illegible]行りにあ給はくろひをおまり
くるし或おまはいくふくとのを山のあなた乃[illegible]
をいでたち給へ[illegible]明書ことくなれは[illegible]
しまやまた給ふをそらながらをながらへ給ふまたに

[illegible]あぐ[illegible]まれぞなびくあしの稀とのをあとくきり
[illegible]ちるを給へるをまく[illegible]大[illegible]女を[illegible]
[illegible]しろ給へくおがさるはば[illegible]
[illegible]ちりゆゑ給ふさぐりゆゑ[illegible]
[illegible]くまれひきんくやしさもは[illegible]
ありしやうにてやんかんまし[illegible]
[illegible]ぎんの[illegible]
きやうを人[illegible]
まうで給へ[illegible]一和の[illegible]
うじて女[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

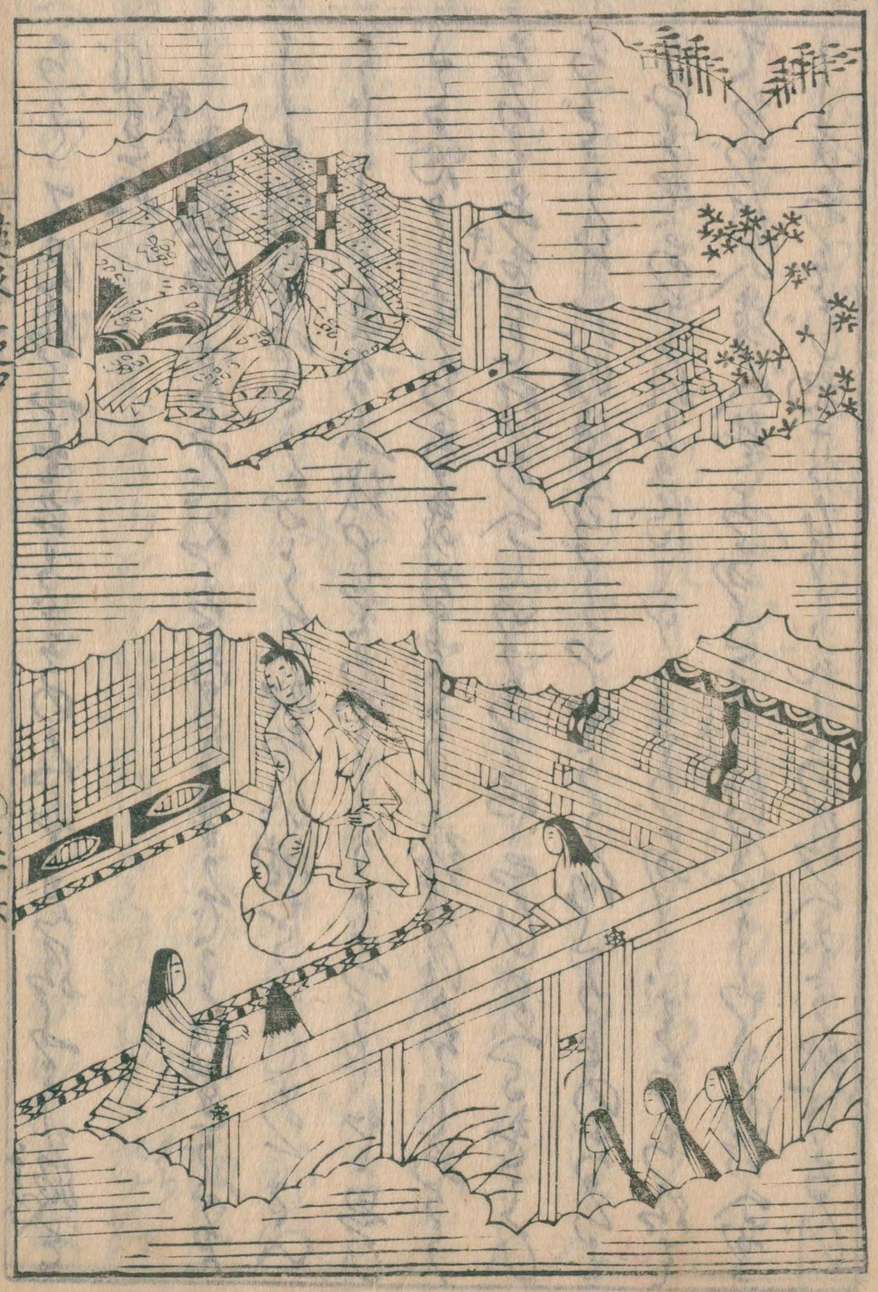
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

ちかくて見給ふまゝそのへやゝ見給ふ事
ばまぬ
[illegible]
悪姫草見るにんきなくさまでこれはまがる見
りも侍なみだかなとてかねに袖をしおてい
こじうな義ゆふ銭ゆせあやしうまづりせ思ひ
ゝる物かしうちな義なるどとし給ひ給ひもあらう
なるまあをもおあへていうふそやしひまへるをまひ
などう升れはとながらいせうう給ひるとのなるは
ゝるませあまれなる侍るゆうきりなし。まなち給ひ
でおがはべ我人ぜおなるまけはしりわたり給へおう
し我あそび物をなしんとの給へだう他うなげ

我給へるなどもいふよりまさまことにらうなげなる侍
事なるどまたぐまへとおぼ也（一事なめりとゆくし
ゆとこ見ゝ給ふを思ひはりおぼさるゝはあるりもい
りまゝせん年あ給ひ来もなくおもひまし給ふ人
をかぐりかるにまさ侍事ハ何なりかあらんから
ざらましうだいうでうはかんまし今まだ此人より
なぐさめてなぐゝ姫べおまやとおまなく思ひなぐ
さ見られ給ひなり語ともふそひて給ひて。ひ
なりち給へりやんぢ給ひでおなるにあそびさ侍ひ
いうじくはかりてなりてんかしわうそれおかく拝給
へ侍あそび物をまれてなまんなどの給ひてさ侍

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

狭衣三之中

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

たゞこれらしかる人なりとおそ[はまく]なるに
なりし我さ海なりなりしたてくゆくらんと[おぼ]かし
づ我つまし。かく汁[一本云ふ]尺と海うく[はこ]大人とおもひつる
りいとゞあれがゆゑまだかりにて[秋ぎりのかぎりのあそ]んまそこらながら
尺とまぐさんとそなどおがほりし人を給くいやく
ちおし[ぎ]我身のまくせられといとゞおぼしなげきを
まことのちをひめ君をもせいをさ勢給ひぞつゐま
わるとせ給ひくまゝ法身をありしとつゝもをにうと
くしくなるまゝさり給ふ。まれく尺とまり給ふよ
ひくも又いせ者と給くもてなしていとまつまな
事のまゝさらゆけと。うちなどの[ぎ]おがしめさん

事をおがほにかゝるまゝ[一本]気のおがしうるをしるく只は
[姫君と]思ふの露ありうまて尺しらぬさ海にてぞ[大語]よろこし
給ひ今海。ひめ君をいとゞうなれむけび[ぎ]給ひ
てゐぐちの法ゐるに乃ゝおもはれだいぐ我うけらし
ゝ給ふ。年此法を海まうにかゝる人のちを紀てそつまく
なるべけまんなりまうはるるまちと乃やうに度なるぞ此
今まで尺をぬるまとさいなゝ給ふおそまつまなれ。
激なりまゝ海まし我まやおくしこ例乃人のやうなら
ましうだ[お]なのげうかこちまるへ[こゝ]りやおくまし今
をいくせん姫君殘おそ[ゐ]のまゝをゆへかめれと法まし
なくの給ふ殘おなかちなりうくすべなるまうをさう海

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

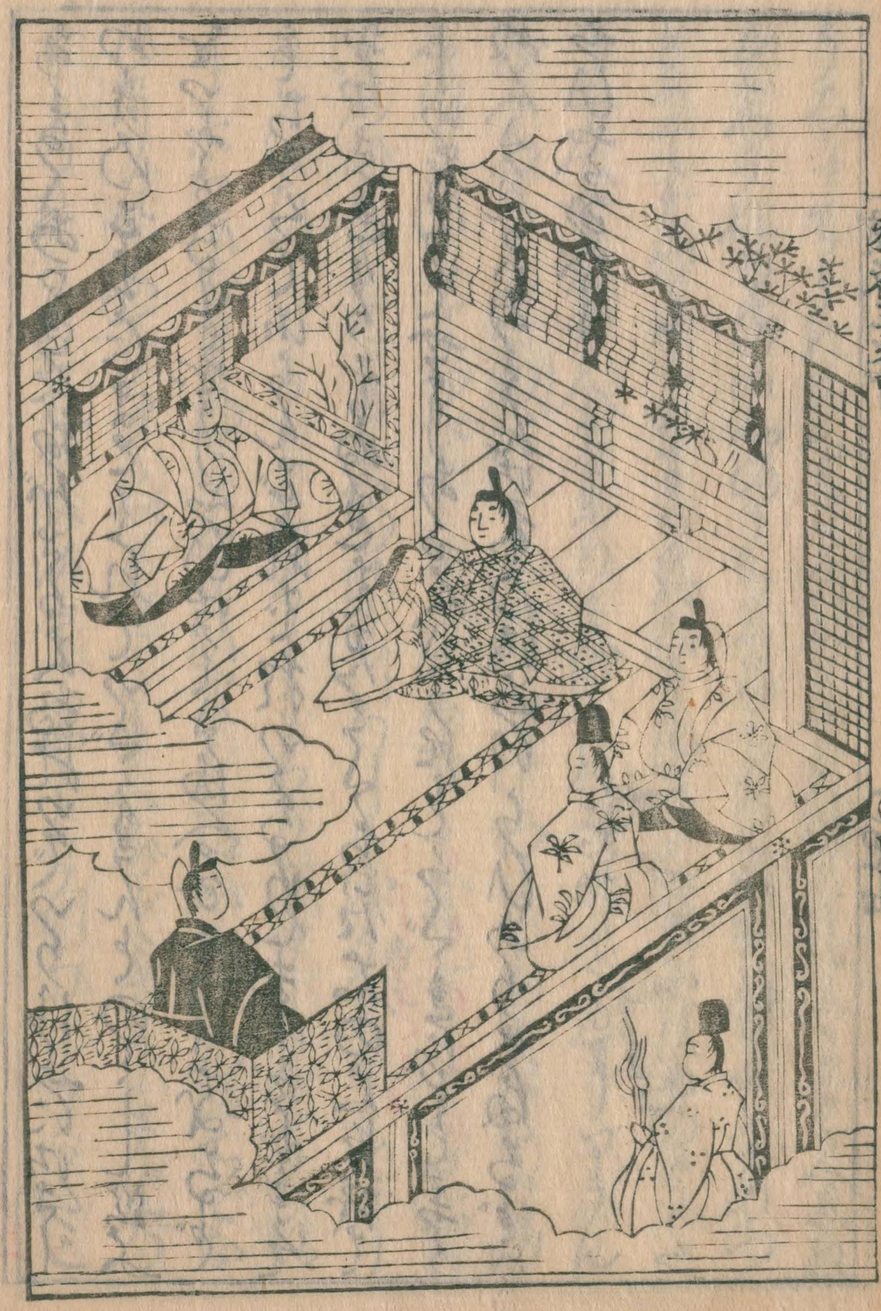
おぼせば、おまえ（俗語とおまゆるし）にて、（さ衣同）ゐでなるこれとも年かへりて二
月計にて侍るんかしを見ゆれば、ゑびかうひと
里にそおはすべしかり常にさはまゝ、ほかへもこちまち
まゐらずに侍りなんと常にかゝる給ふ後、又（女院）いかにせひ
給ふにかとおぼせば、思ふくもえんの給ひ（せ）ではあるをせ
なげにせひこゝろをのをゐんれ（狭衣）はかゝるにてもしびやう
にくをありなんとひとりおくさせ給へばさもなど
かうとざとゞ給ひしそゐんの（女院）はおにて女ごをくしふれ
さぶらひなくまかりしあれ（女院）にてこゝられかゝると
おそこゝとなりしむりといひ（狭衣）なしかゝにぞ（女院）にての
立（法師）こゝろ事にかゝるへ夫をおつきれ（法でなくまでさと）ゐよりな

らぬ（安りうんさ）にかゝる後ぞ夫なる孫ぞ今ぞ（女院にて大将の姫なれば我ひとう）これ志をせひお
（あつかふべきにおるぞとて）ゝべ夫りおくぬさおそこゝとなりしひにひなれと
もいかゞるまりておさまりしかゝん物後引思ひこゝろ
んを存給おぢ夫なるゝんなどおぼせば（女院にて）ゐんようち（狭衣の姫）
（之は俗にれぎとて）くゝ乃るまは常にさせ給ひ（ぞ）ゝまでおまひ立ぬと
なるぞなどのこゝ後たせて法あしゆひ（帝の代にて）ゝ引かゝれ
かゝりにとて（おぼさおちぐ）大後（かゝりにて）常にさせ給へぞわゝる給ひてぞ
させなり給ひ々後大将をわゝる乃法むかへりひ後よ
里法いとまなきまどおまゐまんいれざらんを人先
おやしけまぞおなじさ後にぞ（や左）おりかひりてなし
まひ々後その時とれおりさ後せひやるべし。おとなし

うちゝそゝられ給へるうへにしさ綫刀給ふまゝ人ゝ志れ
ぞおかれ給ふ所はんのうちなるまゝ給ふ事を聞ぞてそのつ
とめてぞわたしなり給ひ給ふ所はとゝもにはめのとゝ
ち二人女房廿人ぞ集り給ふ所はれな牡どもなりまゐん
だうあうまゝ紀菊(きく)此かしきぬ(オニ)をしわたしてきたり法
志のらひなどなべくなるべめでゝ幾ことさくせや。
ゝ給ひよりも若き乃はうへにしさ綫うへ(帝之)をよそなり
きゝ給ひしよりもうへにしうありがたう刀をなり給
りたゝひなる幾拘りおりひ当ゝ給ふ太拘乃はちごお
ひりたがふ下なく似させたまへ所ぞ事なりさ紀乃
世より契りおりまゝ給ふ所は中にやとうへにしうゝ

事なくおりまゝにおがさる太拘此いでいり給ふに法さし
ぬ幾乃まゝそにまゝとまれていぐゝまんとのゝし給ふ
をいはゝかなしまゝりしひ当ゝ所へ給ふ事をしなるなど
もちかくて法らんだれだ程いなりし事ぞやまゝそ
おがさまゝなり言ぬまゝも刀をくちたゝの太臣殿を
じめまりて世りある人ゝ紀をいくゝまゝ所ゝも(ミしうしへも)
ぬ人ゝれかはおくん法第乃法志のらひおりさ所なるどは
しひやるべし

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

げかしぎなる海人りいりぞかせいとはくまいらせおぼさ
まそ王ざとそのさ海かを祢ど夢ちう夢ほとに来り
給ひ給るおほしくまぎりおまりなくんをいりぐと
いとをし夜はさ給さ海も給らんじしらまてぞ
ほのうなれどさにやとこそ雪ゆ海はをそひたぐ入
道乃(法連抜ちれぎこ)夜のおなしさ海にやとえゆるにをのあはまに
おぼしおられ給ふさそそまあながちなるんをはそ
ざく発とてたなれさりけるはそくせともが那ん極
かはなりしをまてまて尺なまる人をなくやはあり
今海のがまがくうまかれがおそ思ひう夢ざりしぬま
さぬさんほしまびく雅をくかくおぼし成(なり)にし

かゝ通ましかくれかくれうの我尺あらうは人のなりし
まそさ海をうのおく給をくまてうしぬとうろぐれは
ぬでそとてさまがれぬべうまけるものをよしやそれ
はうへ夜なが夜世の物思ひとなりぬへかりけるまく
せゆでなこぬともこの海あひぎこれほどにちやとう
(ひ位の頃へ入る夜と今合ハそこくとくいふなりしをも)
ましくこともなどいふ人をなりけるそそるをぬるか
さくやしなはくをそさしをあるまじ夜ろすさんを
まゑしうちなげうまて
(狭衣)おなじくはさせよなおあまのぬれぎろもよそふ
(海士に尼を入れ)
海うしりにくからはやとはとなく云なち給へるハ
人さくしるへうもあらねどあんますくしはさせて

京乙
16
335

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『狭衣』　請求記号　京乙-335

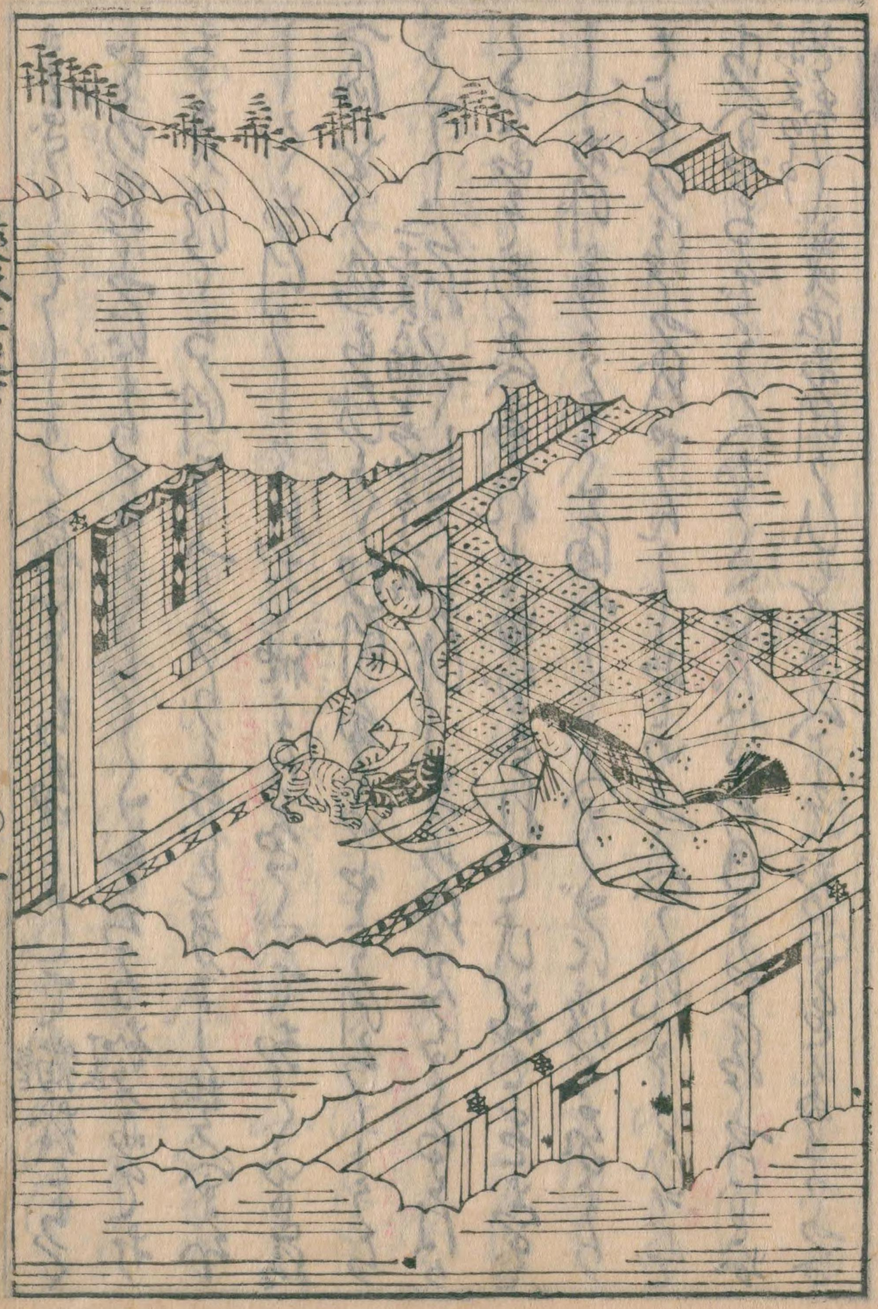
ガラス使用

狭衣巻第三之下

あらぬ所やおはしなぐさ給ひし一条の宮にもこの
夜のおはしまさしぼうくれ所なくてわが夜はりこと
つまり給ひし山房がちに入りたまふ内にきうせ
給ひん事いとじうぜんなまふ大殿の御しさせ
給へばおはしませにおはしませ御ばしたまとむつ
かしかれば歌ゐんりて来りてうく思ふ給へり御
の御ようなるを宮あしまかちゆくたれ海なれそう
乃きし武をいせて所かしまちめやりに物心がそく
て来り給ひぬまば又何ようなるを志のぶかちおり
いさぬことにみぶれまさるを給ひぬべし御まへのうた

鉄沐齋藏書

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

同人
たま紙をぬのむとれものをりけまれたしらわまれ
なまてそらちハ志めともとあ御ふと夏れおもゝぎさ
へたそひてたしふえんぞおがしさ(さた)御されざるもゝ
狭衣
よりあきん浴をかなし夏まれだしらなるぞ
浮本
うさらになりぞしぬべ夏とてとゝふとえたものれ
行をぬりあまりあまりてなまらせたまへ御人ゝ来りて
昨日
きのふおよひちどおりしましどころ志らせ給ひて
夏もまぐらおがしさハかせ行へるるまちまとやせだ(さあらを)おへ
ちん・さてありさせ給へりし・あまりむけましうの給ひ
御ふとまたいぬやさ給ひなかりをふさへをとなくて
らしし給ふべ夏なら祢だ出給ふふとまれだしらを

いやうへりあんがちにおぼされけり・年うへりぬまばことし
ま秋飛わるこらを給ふ通しとてなみん流(今よりち)ろ見がく
せ給ふに大宮(ミヤ)わるりの志げがかなる祢まだあく浴とに
ぶひまうまそて同じいるひがなちどいへぞほどく
りつきてよういくまへる御まなりなさけあよな
しゝとし此賀茂乃まつりま今よりまさ御ことに世中
ゆまりて思ひいやなむまいるなべ夏みつその日ま
一条のおりちわるり給ふべ夏さハ乃ぞよ給い通しき
家くゝ乃うち思ひいうぎたるうし車(くるま)をいぶんあと
祢りざう志夏乃まがくを馬(うぐうぐ)うを大くち(う)むま
そひのさうぞくうざり後いりで世にめつらしく人ゝ

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

狭衣三之下

まのうずなどまいりたまきりたしむ我刀よりしとそ
面がて女房(だう)れさぶらぬうぎりを引けばぐ置うぞおが
しをきそ者ら面んおとなれ人と十人ばかりを女(まよ)置
さうなどれ同しいとぎゆて今四十人わらを八人のる
べ我くる夜を取くりを紀と後りてかくれなうめで
あうしてまいらすべ我よしぎつまやうどもあるりて
まもくとあ後をけらしるぎにいらゆめでこより
きんを和ばかさのつかひり年にひとつしいでこる我
あにその日れ刀れ柄にはそまにまさ後るすやハあるか年
いとみ(みち)かたしてしいでこんを紀ぐるまにあまよ後
しらんかしらつ我さ後うちにてのりこんハま

だゆうまぬべ我とぎうなと今より大将度乃明着いひ
たやしまふりぬきんとまはめやうにまびまぎふぞ
とかりな後やけるべ我人とのむをめたれんのまに
うしづ我さそて親(おや)せうをなるとにぶにたえぐにさし
むかふるをせぐ丁乃内もやにだまちいさ紀ちやうを
身(こ)たなこぐなるとなるひこるきたぐまぐれあぎて
ひな中(ちう)に一条乃おな後わくらんぐにいせまびし
うまぬべ我とぎなる我ましてあふぎなるどさへかくれ
なくのこしまされたまぎまめやうにあまさぬだうり
なるをしむまどもぞおほうりあるみうきれ日にもぬぬ
まぐつと知てうるを大とのこちぬいそがせ給ひて人

れうへにて見るだけ目乃いこうくるかくまんとともに
をなそしくとのこ志り紛へむ世ふ法ほうまことに
に事どもとくなりて出し車ともよせてのせさせて
まふまつまちしと思ふくいざまいでこ為へ給へ
ちありさ後者ゆり年はかそぢあまりぐしこゝん我
こゞ国さを給へるまるしまあくまなくまばんと
り世りさこゆるまに紀ぐるまのまま我が者んやまく
法らんじわこすまきぬ乃亀ぞあとにめづらしうち
祿どあが我世のそめ先しとおがしめ給ふや松のかう
みどり我いく川ともなくうちかさねこうおかさはこ
ちこしおるじ亀乃・さうかれうまぎ我の姫せんまう

乃かうきぬは松にと乃こゝもと・ぬひものあしこゝもは
あ我きういふ乃姫せんまうにぢんのいまたて・あがほ
乃いさごは白うねの波よせてひこまに松のかみぞう
れんぞへをぞ・ぬひ拘りしこゝりくるまこしまくおはじ
亀にてうへれまう後うぎみなど女房乃をうしこさぬ
などの同しんにてぞあるまきは書法ぐ
者こゝろはいせ見んどころなうあまやいこじかるまく
とてりど我わこゝりれぬべきまどそおりくる後引
法ぐきられこりしまれはほよりまゝ見ん和あこゝあし
とぞあるし何いろをいひ法ぐきこゝ後よりハそめう
らさこゝ者にあるそうし・おなじ我あやをりをのうち

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

ものなどいへどきこゆるまことのかたり同し抱乃志ゆるさ
とも見えずとおそはあきだかくかなる法ぐ者なる
よりまハ分るまめでくぬくとそハありまめとおりひや事
ぶし法車（ゆきくるま）をうらのうきにいるまハちいさくてめづらし
うらいらし歳さ後おとよりし（堀川殿）殿大将殿法木丁此左右
をおさへくたち給へ前にうへのよろ川ハ法ひつ
のせなり給ふ事も粗色（つた）ゆくまぎにおがしめしてと
こふもえなりやらぬ幾大将とのちやうれそだより
きこしのそなまへきハうらなでしあのみ色乃織（あり）抱ふ
同し色乃みへのあうちきこさせ給ひてさいしさく
せ給へ後りとゆひかり法ひこむがこの事をひこくなよ

くと引き（ひき）ひこうはいとぐりてもやされてあまめ
うしう絶でたう見えさせ給ふまもん後どひまたん
してなほかくまてひんあしてまつり法るよあ
なくちおしと覚ゆる幾神をいろふ法らんをこんいて
やかう乃こさすがにたこ（こち）をもれぜおかこだ法らに
をかぐしうらじとぞ（てた）みげかくぬにことかくまを給ふ
法ゆる後引いづまだ上（えん）を抱法らんじて取りて本
ゐんへわこら勢こ後へだ（れた）又法車（ゆきくるま）よせてなりぬかね
てきこしかりたがいだ一条乃おか法ゆひさなく
かいしまでたちうさなりこゆる後さじこさのおか
なるどまべくうちの人かしらさしいげ遣うをもあ

ふかしあく男のなくんやうをしらべあるのじうなうさあるとくるさ海いわとしびしげありちる人我不しくのさしさのあるとさ海ものみんぐる海の袖口などこと
あれうあてきとしふあがたべ然をとくやくるものを
おほうりまして法と乃人を例乃かすようをおかり
ほとをのく出しそていそぞ法らん家乃中きにいう
ありつくんせをみそてめでたなく年乃みそ我れあり
さ海あるを

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

仰せごとども（源氏の大将殿の御ことを上と源氏なる大将殿のもの思ひ）のおもりまされるわりたのみきこえさせたまふ（ひまなきさまどのみをそ）みさぶらひのあまさへ（まいりつどひて）たえ絶いぬと思びさわぐ（ぐ）をそよびくまもあり（ぬ）（数名）さうまゐりうちまゐる風まで添をりふせんもよもぬ投り（こと）思ひさわれど（ぐ）ぶにせく勢ひもぬぞ（ぐ）じうしめ（ぐ）やまひ（ぐ）ほうをまゐりさのはひ（世今の始まり）この少将そうじ（ぐ）ん大納言の（源氏大将）

（ぐ）うきにさそはれて（ぐ）まうで（ぐ）給ひぬれば（ぐ）ほうをさせ給ひて（ぐ）おはしまさぬ（ぐ）ほどの（ぐ）ことどもを（ぐ）思ひやりきこえさせ給ふ（ぐ）ほどに

狭衣 思ふことなるあるにもあらずなりしよりほどくだにかへ神ぬ乃
いかに幾月をかきにけりせひとりあり給ふをも女房こそ
女別當 くらしもてこ神もしきてんほどくだす思りん
うぢなる御をしみなをしみそおけもあるこゑぞもあるも
御かそ汲をありしき後ことなくよくありしう思ふ
るものぐりあしう給ひ給ひしきすがに例なるこんるよ
いづこにおそろしさにあるに給へだ
なれしまし面のたづがうそめに抱きたる給はぬ
風などだうり後なれしまは給あらりみておとも
なるに風さへほのかにも似ず抱きひがしうてこそ
ぬるべきをおそしあれど大將後そのぞ後のひ

給くいせあらもなるわぎうなありしまし而申は
狂まひにもたづへだや狭衣こそあまりしうお
りしまさんそあしうりぬへけまとてはく給ひあり
我身のへだ御地袴とるしなよくこうやうれさぐ通こるさ
面なるどみてそそさし出ぞみて給りそめうろ川乃人
りぬぐむかひひろやうなれだけわる我人ぐに給
しにふる面なるこんとこびまどひろと中の面
まばそれ狭衣袴くるまにくも回しまうれなりあり
されどいとけ給をにこびうしうかんうくをあん
めまばたぐん僥倖むるこんあきまきまして公あきまきまして夜の年さけさるかうしかれ
きまむしるもなるしたり北下第まあそうるき
こぞなりめれとほくこそみて刀ぞせ給人給はみの

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

まにむさびとぐ先ばなどもなくひうちはさ
ひてそひかし給へるに宮乃中将（後式アヽ宮の法まで）まりたまへかなり
志（狭衣の様也）とん色乃法ぞのなよくうるるに兼れかうのをとも
抱乃さしぬ夷ぞうりとを夷給ひて抱おまれとおぼし
ふるをし夷にて縁かしこ海へ夷さ海のいふかこちう
めでこう。見て給ふまも人志まにしひおりかも海へ人（中ね）
乃法るすまげ（とん）しひ出てまて志の人乃法あらりたちを
ともおきまかりうしひ法ひなくひをかるまうに
むしぬ（ミハ中ね）のうよ姫あらりにあらずたむ（妹の男に結とめさ）さびや
せまし志くうへ乃つまとう夷つまかれば人のまねび
しる我等ぬをさひにとまぞうりまひて何やかや

と世の物うるうをしうあまふ法ぬでりしも。おやなかぬが
うるまじ夷ん地乃ミさうる我んよりまりしらぬが
にて（まくぐ）をさ海ちどぎにものんがそぎにおぼしるを
しなるどれさらぐ給りしまりしうしうのこお
ほう給へば。をぞさてあらぬ姫のえをあらぐこう
よそ給まおぼし先しぬにをぐそぐ法をなぐさ先
ぬらせてんし。いかとも人りしるといふさ海をなべて
の人うるはおりしきにうの男（男はそうけ兼の所也）にうそ通しまるきん
のとうとのひめぎ見ともいうやうにやと思ひ通しまる給
ひてゆりしき法んなぬらず。いうじう事（狭衣判）あるまがかなり
いひなし給へるうなまのんは（兼後はいかゞでも）あへるうこさ海にはあら

で（中将の）ゆうりまとにふれて（道世）せのいとりしきふをの
つまゝながわきながらこもおまれなるぞやぞふは
ごしなとれおながちなるなとがあくぞまとりかや
おひなくさまれまりしかりそふかぎよりかにこと
とふ人のなけまばふやと心なまかりうとなれど
いきやながらさらんものゆへ中りくなんほぶし
なとれおらんまそいとをしうるべきれあまりこと
しくしうとぐらりし幾事などはなくてうちゐの
こまゝ給ぐるし者なんん人などをみがまとにまと
ましまた命をおしうまぬべ幾ことさそうしなとの給
ふ氣（くしき）を（妹のこと中将の媒）をさらしんうなかあれどいでやめでたなま

（さてそしらの入所のさうさそうとそれいうしらいもうまれまさん）

ふ一きてをおがしうずまへらまでまいりなるものをひ
のこねとうれなるんとなとへぐらちおしうるままり
中将の扇ゝ秋の野ゆうきて風いてうしかせる馬
よりとおしろふまだの露おもぎまる後をぐらこ姫
まるさ後しうれきし幾をおしううれおしうる後
刀給ひて於乃おき風まれのこりことをさらな
ゆきやうまたまへ家はさ海ことにちいさくて
（狭衣）秋うこゝまゝ（中将の妹をさらんて）ひまゝおきよおきなぎ幾ぶ給
をよまゝなかぜまなくとも
（日人）ふゆは（中将の妹を）ゆひをきしまれ乃投をしうらみ姫
（別の人へひうるうとて）まるまゝやなくらんいりしういとがやまるまさひ

のひてさ海くれ法ざへといへどめもたをよぎぬりまれ
をまてあしとの見しらん女ちどの笑とぐめぬはあら
じうしやと見えたり
気中将 まゐくとともなびくあるよ夏志のぞく幾あれうせ
ぬかぬ乃へも見えぬ
司之 秋風を旅衣ぬるせうせ
日本 をしなへて志めゆひまゐ秋乃これ幾乃
霧をうきしやぞおもふちと書て見せなきだ
あぢきなき紀さうしらうれとまゐひ給ひて色どる
風もとくちぎさひ給へるあいぎやうなる絵くは法
あたら乃ちるともなしまゐしまゐりまめやうふは
むかしよりも粗き中をしたる絵見えもしり給まぬこそあ

行とう気のあること

給うられ行乃ちるともたぐひて世に志がしう事とぐ給ん
させんちどもおがさぬおめりしとうらん給へだ
いでそのおきなきもあのさぐ気ふてまいやもむこくに
おそハ給ふ気ちどいふほどにさるべき人をあまる
来りまへきば物むつかし幾まぐらかしにとてふと
法らりちどして物をもてがらあそびありしまひそう
二三日斗あるそうの中ね乃りとにう地法をちるさ海
りおがれ雲けきやうの中えしたけとりのおされを
うたらひまひてんや聖べ乃ふたぐも扱いぐらぬのこ
中をしてちん見もさうしまゐ給ひてとて中よ
あるふは

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

ひとうくにおりひみくるく志のぎく夷風のたよ
つとにおの先んりしきやとあ所・ゑくるよハるくてくけ
ぎらふはほ乃めりし侍しうぜいとおりがこぎり
こそ中ちるるふはむひおとされさ勢ふ面へ取り
や・おふぎもちくし侍しうぜ
吹まふふ風乃きしもおもしぬかなさ夷れ志こ
ちるうきれこそゆまくちおしけちるさ海りおそこ
まもひとつうくに清くを侍りてとある後・ぎにまと
しいさ帯ちれほどふやとおがしや家九月ふは
ちがのゐん乃入夏文れはくらをたまへる法花のまん
ぎくくやうせさを給ひくあがて・ちかうおとあまも

給ふ・その程まで大物愛も日くアリ来らせ給へだまして
さらぬかんぎち先夏上人ちどまいらぬちし給ふ人ふ
ち所かりじぎれえりまぐらせまへるものく年法ち海
をはらしけるを志乃がくもん乃程乃西へ夷さびあれ
ぎん我はくしさ所志るしありてたうとくめでこ
夷り回答ちれおとしじとおくそふ口おもさごも
もおりしろくさくあるまうぎりちしよひあろ
夷乃せんぼうちとふとも知ちまとられる後えらせ
もへまバおもまにくゐうとし西方念仏のおるもまも
ちまれ花のんてちりまがひこるに名ちれをゆり
おひこ所ハおくらくもかくやとをしちうらるみや

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

さまにせたまへるなるとそわとてまゐらへど入たまへやも見
もおこせ給ひけれ。おくうしこまぎれあり幾ものひて。心やも
さきうきうきまや。もなちをさ給ひてくぐ所をたまきかは
おしん。大乃やをしあくをとしてさぎとあわひ入たる
をひ風もまだ留べうもあしぬすたぐ何とも思ひあへ
ぎ見やり給へまげかうかりれかげ姫と見ゆるに物も
おぼしさせ給ひけれ。仏れさうじ口にいりて引さてさ勢
のひぬる。もものこわなくまてさこにぞたてらまき
ぬ。かのあるし。称えれ庭りぬもしまへ給ひしぬれ
家おぼし出らまてあらひさへ。ちぐうしおくぞ面ぞて
いくながらかせごれか物乃やうにも奴ちたんとあら給

まぎひもよのつきなくぬりけぞのまそそも給うなう
ひまへさせ給ひてぐ所はんのとさも。限なくうら免
しうらなしさにこのさうぎもひなる面りのべうなが
ゆまでぐむ口のこさまぞてとこにぞ。うごうまぬ宮を
りしこうつりまてくたてさせまへるにまぐぐくとか所
もまてこ後くもえのがまこ海りぐやがてうのぶさせ
給へりかけらまぬるにやと思ひ給ふりまくせんう
くいとぐながゆれどあるこはぬるとごめと見まばあく
海やまくて面ぐてちどもやかり給ひけたぐきながら
ようぬ給ひてと中物もの之面りぐ涙のこせまやる
うこなくれだをさへてためらひ俺給へり見ようなぐ

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用

なりやとまつまあ給はけ給りつまじ今そあて
給のう絶まとし深しうなりて年あ給れ給へもと
ぎ給りぬべかめ事などまべくまひびや御ぐくも
おらぬ事ともをいひも聞らばむせかへり給ふに入道
みしかされう義も清らさも思らまそくの世ふ御まと
思もうさぶきぬべしされど気をゆゑてしだよかれど
なほ此をちか義はどみてまも又きうじとおぼさま
しふいせ抱おそろしうていかゞもしくえうとうまし
させ給ひぬを男（大ね）君見よりわ遂ぶそなれはどな
どまでハおぼしもよらぬぎ事つまばまま給ひ世の
思ひ出みて聞えぬべけまと・うちみじろき給ふ事

しきぶにな義をおさまましうおぼしかな給ふ
俺（ほひ）給ひてさうじをさぐり給へばかけられ（かけがねも）よりまい
とぐうらぬしうんうきに思ひよびくくぬぐうがし
給さしいれてさうじ此かな事がほをさぐり給ふに
なまぬるやうなまばたゞまとうしおきて此のもさ
ま御ちまたハさうせ給ひぬ御やいかゞもしく御をひ
をきく給らむまとあしもちくさゝぬへ事をおき
ましうも給るかないせかくて（チイ）ハ中しくおやまつ
もあしべうもあそ
藤（狭衣も）うり舟なる給ふぞり給ふ御ぬ事ふみまかり
しき里此おまかないかゞもしく乃給ひせよとて御

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

めさ御さま後さへきうれなりさるよち後同しさ海
にて世ゝりあまとと学ゝなるまさうれるすうかとおか
し法ぐらるにうそにてあくら思ひなげ夷法る
八数にもおしさまをうわきこの法分れ程にて思
りんすれ程くいひしらぬうん面べ夷をさうかとわが
ある法にだにしひしらぬにくやしうかしう
て新メをもくぬて何なし
八子うへりらぬまの水をうひな夷ゝしみよ
なのじうぎや見ゆるとたぐあらひたりあそれが
うまそをゆゝさせ先とてなきあさ海人の法雑
さへしかなたりに放ぬるにまの法ぎしなるもいを

いうじぎにて法ぞのうへとこと後まいでおせもおち
たちまに何なりをみなことりに思ひ行へしまとる
身れおやまちとはいひなぐらうむぎにおがし
まてらるべ夷ちぎり此程にも偽らぬをといひいで
給ふを中く法ら夷ふしきけきん此しまふ
たぐいひ面らんうさなくらやしうかなしられも
ん也まれまくには波のこまそおまをも法りまるぞ
うりに放ゆく中納言乃まけいやうに法ゝし夷
をんらうしうしひおりにに院乃ごやおきの程にも
なりまに今りおおこなませ行ひけく例乃まなこ
ざ海にぞたくぎ海せまふなるなおるなる

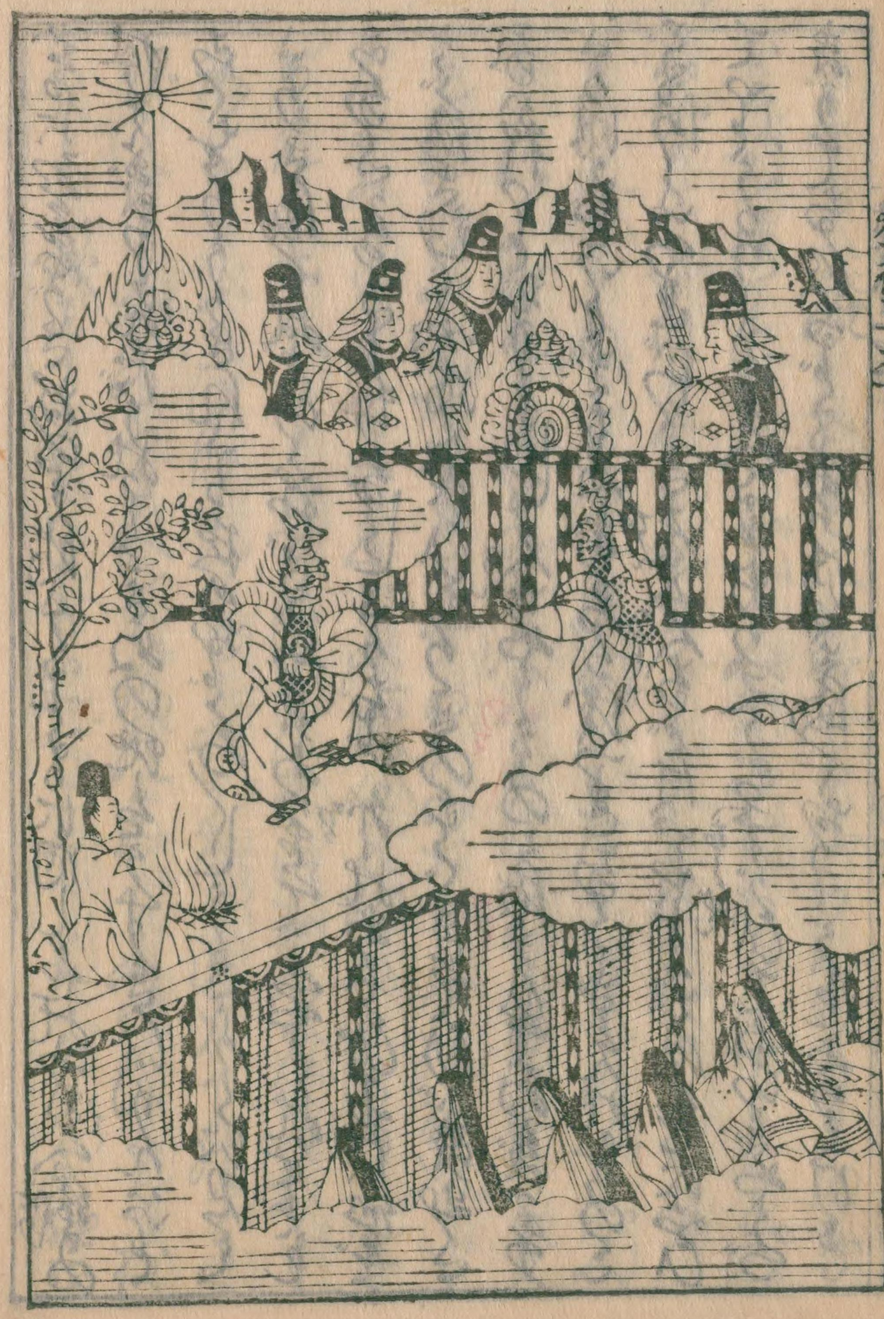
○古本
おりかゝる云ハ我あ
やまちまや早なる
うんとうくらく

たちあがりにおまれかなしとも おがしきこんこと
そちなにてすかはおらんあらひきあかれなり法ろ
法ぐしのまあたりのこんりまてつ給へりたくさふ
ひとつれくちおしういうじこさのこゝにもあらばなさ
なまものにおがしいでられて屋こゝめる後今八十歳
を屋こんすなれかりにはまたかりこゝ勇こゝ雅ゆへうすぐ
うるとそむ我ぐらに勇後そむきまてんとたに我
ひとりさひなぐさめかれ法んにはいこしう空かこ
しらばともそれを後こゝとたちおがさじかるまけ
ん後あかれ今そ思ひかへし給ふべなりこゝもあら
ぎたぐ屋にしうこゝなる勇後こちまちにそうすて

て佛をおかれとおがしめしてうの一きまうし法しこ
と思ひいり給ひにきん人のあくごうれをあれ給ふ
べ我しるべとはかならばぬなんかしとひとへにそ思
ひたてのひぬるにもいひしらばれのこうるしかれ
がなぐさめにうこましるに翠翼を引よせてこさ
とおらばてひきすさひ法くおきんが乃もしと
うこひ給へる故なと我ながらもぎにおがろ者
ならばやはしがこうおがしきるべし屋も法め
さ後し給ひて大将はしにこそあり者れよべも
さがれゐんにこ後るべしと突しをなぜうかうとも
いまざるを後ならんいとをしきこゝ乃法るをいへ

ふましてあのうへちとれ物がしまどうんありさ夜など
はなを落かれ物がしをうるべき夜ゆもあら稀どもとの
しげくもいけとてもあるじるまれば女ぢよくあく
せ後さくまぬうまてうれ契りたまひしあし他人
り清うるんうまをのこ人しまだ物がしたちあがら
も霜月ゆも如ぬまじが母ゐんのあや恵れ祖いとぐ
見ましてぐらくて清うぐられ夜ゆも如ぬまいのうんぐ
ち先度上人ちと来り清どひて清おの庭火あど
落くしうて。ひ夜よりもさやうまり清木丁れかこ
ぐらども菓のかくへをり物れ女こうつろひこる枝
さしも御りきまるまが見ゆこ見ゆこり女房の袖口

ふきにハ御髪がき稀のう地こるどもに同し色れかくへ織もの
だちまぬつまんだうれからさぬの地をうすきにかんハいと
あくをりうかされたる初めおどろくしうきよりに見え
うさ夜くれとのく稀どもふ夜あるをて。しやくれをとも
あるこうるくうちあしこうるなど外れあそびゆは似ぞ
そぐ落さむく安ゆるにひちりこさのまぐきてひぐ夜出て
女ハ粗いとおりしらしゝ人ぢやうのたゆまひてぬ夜ゆ
うるほうぎいとまだゆ番ある後つきあるさえれをのこ
どもめしいつまバつきて上人ぢどはいやまだゆぎにさひ
ていとうるりしうてうへるもあり又うちすがひてあいぎやうづ
ありてちれちどもあり清くさ夜くおりしうもあるとける



国立国会図書館　タイトル『狭衣』 請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣』　請求記号 京乙-335
ガラス使用